平成27年度校区まちづくり協議会
活動成果報告会～地域で育むまちづくり～
―１日目―

［美園小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○髙木氏　皆さん、こんばんは。美園小学校区まちづくり協議会の髙木でございます。どうかよろしくお願いします。

当まちづくり協議会、平成26年度活動報告をさせていただきます。

わがまち推進計画に掲げた、まちづくりの目標、「みんなの笑顔あふれる美しいまち美園」を踏まえまして、世代間交流事業、安心・安全まちづくり事業、子育て事業を推進いたしましたその主なものを報告させていただきます。

まずは、世代間交流事業ですが、学校が夏休みに入ってすぐ、美園小学校の校庭において校庭キャンプを実施しました。校庭キャンプでは飯ごう炊さんをし、カレーライスをつくったわけですが、これを火おこしから、米洗い、野菜切り、盛りつけまで、大人がサポートはしましたが、子どもたちみずからの手で行わせることにより、大きな災害の際には小学校の高学年であれば十分戦力になることも考え、災害時における子どもたちによる炊き出し訓練を兼ねたものです。

この画像は、大人の指導のもと、子どもたちが野菜を切り刻んでいるところです。

これは、カレーを炊いているところです。この火つけも子どもたちにさせました。

これが、いよいよでき上がって盛りつけをし、食べるところでございます。

これはキャンプファイアーの風景です。校庭キャンプの主役は子どもたちでありまして、画像にはありませんでしたが、テント張りも子どもたちに体験させました。小学生、これを指導する育成会指導者及び高齢者との交流を図ることもできました。

次は、昨年11月、大雨の中、美園小学校校庭で実施しました「ふれあいまつり」でございます。

校区まちづくり協議会構成団体によるうどん、焼きそば等10余りのブースの一部でございます。

これは住民の健康相談指導並びに町会加入促進活動として市役所の市民ふれあい課が設けてくださったブースでございます。

一昨年に続きふれあいまつりで一番人気となった体育館につくった迷路でございます。

これが、雨の中での同じふれあいまつりの風景です。

続いて、三世代グラウンドゴルフ大会です。親子・孫の三世代が入り交っての世代間交流を図ったものでございます。これを毎年、世代間交流ということで実施しているものであります。

次、これはグラウンドゴルフの一コマでございます。これも同じ。

次は、安心・安全まちづくり推進事業として、久宝園公園に昨年度設置された防火水槽及び可搬式ポンプを利用しての防災訓練です。

このときの訓練は、平日昼間帯は男性の大半が出勤等の関係で地域を留守にし、地域に残っているのは女性が大半であるということから、女性に重点を置き、ポンプの搬送、備えつけ、エンジン始動、放水等、主に女性による訓練を行いました。

この放水の筒先を持っているのも、やはり女性でございます。

次は、小学校の土曜スクールがありましたわけですが、このテーマが防災であったことから、これに便乗させていただき、小学校校庭に埋設されている一人一日３リットルの水を使用するとして、１万人の方が３日分利用できる飲料水が蓄えられているという非常用耐震性貯水槽の利用操作訓練と、この貯水槽の存在を住民に周知徹底するということを狙いに行ったものです。

この画像は、水槽の発掘をしているところでございます。

これは、手動ポンプによって水道水をくみ上げているところでございます。この非常用水槽が、いざというとき宝の持ち腐れとならないように、今後とも訓練を重ねていかなければと、考えている次第でございます。

次は、京都市にあります京都市民防災センターにおける体験型防災研修会でございます。

これは講義を受けているところでございます。

次、そして、これは消火訓練です。

これは震度７を体験していただいているところです。

次、これは風速32メートルの体験をしていただいているところです。

これら災害の具体性を実体験することによっての地域住民の危機管理意識の高揚を図りました。

次は、子育て支援事業です。安心・安全のまちづくり推進事業と重複もしますが、ＰＴＡを中心に配布しました自転車の前かごにつける防犯活動用プレート。これがそうですね。防犯活動用プレートです。

これは防犯ベストを着用してのパトロールです。子どもの見守りのパトロールの一コマであります。

この自転車でのパトロールを実施するに当たって、特に気をつけていますのは、自転車の交通ルールをきちっと守るということであります。パトロールする者がしっかりとルールを守り、毅然とした態度をとることが、すきのないパトロール隊の印象づけになるのではないかというところから、これによって効果が上がるパトロールを考えております。これは、自転車一列でパトロールしているところです。

これもやはり一列で、次、右折するつもりなんですね。それで右折待ち、横をちらっと車が写っておるんですけど、みんな並んで右折待ちを、車が通り過ぎるのを待つ、右折待ちをしているところでございます。

この防犯パトロール用のベストですが、これは計画に基づいた日時限定のパトロールだけに限らず、散歩やジョギングなどのとき、また公園でくつろぐときなどの時間を利用して、自由な時間に自由な意思で、多くの住民が防犯ベストを着用し、ランダムなパトロール活動を推進することを呼びかけ、現在30名弱の方が着用してパトロールをしてくださっております。

昨年、この報告会の際、本日お越しいただいております田中先生だったと思いますが、北九州のある地域では、全世帯に防犯ベストを配布したと聞きました。これにはほど遠いですが、徐々にこれに近づけることを目標に、毎年住民に配布し、防犯ベス

トの着用をふやすことによって、地域全体の住民の目が防犯の目となるように、めざしていきたいと思います。

最後は、大阪府警の安まちアーカイブの利用登録書の写しです。

安まちアーカイブに登録することにより、地域の犯罪発生状況を知り、府警の防犯啓発チラシのダウンロードや、地域の実情に合った防犯啓発ちらしの作成により、地域に密着したタイムリーな広報活動を実施し、安心・安全まちづくり事業、子育て支援事業の推進に生かそうと考えています。

以上が、美園小学校区まちづくり協議会の報告であります。ご清聴ありがとうございました。

○田中先生　トップバッター、どうもご苦労さまでした。昨年も、実は、美園小学校区の報告が、私の担当回だったものですから、昨年度との比較の中で、実は聴かせていただいたので、ほかの学校区に比べると、少しそれだけハードルが私の中でも上がってるのかもしれませんけど、最後におっしゃっていただいたように、早速昨年、たしかこの場で、こういうものがあるよとアドバイスをしたかもしれないんですが、北九州の小倉南区の曽根小学校区ですね、あそこがこういう見守り隊も結成して、一石二鳥というか、ご高齢の方の健康づくりも、実は自転車をこぐことになるし、当然、夕方校区内をくまなく見守って、子どもの安全を守っていると、そういうことを早速やられたんだなと思って、感心をして見させていただきました。

その上で、昨年もお話をしたかもしれませんが、校庭キャンプが非常に有意義だなと思って聞いてるんですけども、当然、学校というのは非常に日常的なところで、その日常的なところに泊まったりキャンプしたりするというのは、子どもは実は非常に新鮮なんですね。僕は神戸に住んでて、私の子どもたちの学校も同じことをやってるんですが、非常に好評です。そういう意味で、子どもたちが楽しみながらいろんなことを学ぶにはうってつけだなと思ってます。

しかも、今日のお話では、災害時の炊き出し訓練を、実は兼ねてると。だから、単にイベントをやることが目的になってるんではなくて、きちんと校庭キャンプの中に、本来の狙いみたいなのが、そっと表だってではないんだけども、隠されて、それがちゃんと子どもたちに残されていくというのは、こういうしかけは、非常にほかの校区の参考になるんじゃないかなと思って聞いてました。

最後に、一つだけお尋ねしたいんですけども、平成25年度の取り組みと、それから平成26年度の取り組みと、何か工夫をされた、ここを変えた、挑戦してみたというようなことがあれば、少し、最後にお話いただきたいと思います。

○髙木氏　パトロール活動でありますけど、平成25年度までは、本当に月２回、第何曜日の何時から何時の間と、このようなふうにパトロールが限られていたわけですけど、もちろんこれは継続しておりますけど、これ以外に、散歩のときとか、あるいは公園へ行ってくつろいでいるとき、あるいは犬を連れての散歩のとき、それからちょっと買い物に出るとき、そのようなときに、防犯ベストを着ていただいて、パトロールを兼ねていただく、ランダムなパトロールということを、今年はちょっと考えました。

○田中先生　ありがとうございます。今日最後の総括のほうにもお話をしようとは思ってるんですが、やっぱり、常に挑戦をしてコミュニティを成長させていくという、

そういう視点で、また来年度も聞かせてもらったらと思いますので、ぜひとも頑張ってください。ありがとうございました。

［長池小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○清水氏　長池小学校区まちづくり協議会の清水と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

長池小学校区まちづくり協議会では、わがまち推進計画ということで、目標を四つ掲げております。

まず、１番目、安全・安心なまち、２番目、子育てのしやすいまち、３番目、緑ヶ丘コミセンを中心に、生涯学習並びに地域活動の活発なまち、４番目ですけども、福祉サービスの提供のできるまち、この四つを目標としていろんな取り組みを進めております。

まず、最初に言いました安全・安心なまちづくり推進事業として、防災訓練、これを昨年７月６日、日曜日、小学校において実施いたしました。町会ごとに集合いたしまして、町会長が先導いたします。そして避難場所である長池小学校に集合するという想定で行いました。

当日は、500名近い地区住民の方々が参加していただきました。近くにあります消防署山本分署の協力を得まして、さまざまな訓練を実施いたしました。

まず、最初の写真ですけども、ホースによる放水実験です。小学校のプールなんですけども、それを利用いたしまして、子どもたち横に立ってますね。早くしたいような顔をしてますけども、子どもたちにも実施してもらいました。

次の写真は、これ、必要かとは思うんですけども、高いところから、例えば、おりる場合のロープ結束の訓練なんですけども、なかなかできません。１回では覚えられませんでした。何回もこれからする必要がある、覚え込むまでする必要があるかなとは思います。

そのほかですけども、テントの中に煙を充満させて通過する煙中体験、そしてＡＥＤの使い方、そして、さらには保存用の非常食、それを使った炊き出し訓練も行いました。

今後とも、こういう訓練内容をいろいろ工夫して、また住民の防災意識を高めていきたいと思っております。

続きまして、子育て推進事業でございますけども、ベテラン保育士さんの指導による「子うさぎ教室」を、毎月第１水曜日に、コミュニティセンターで実施いたしております。ただし、５月と１月は除く年10回でございます。次の写真は、子うさぎ教室の写真なんですけども、ゼロ歳児から就園前までのお子さんと保護者を対象に、保育士の指導により絵本や手遊び、おしゃべりなどを通じて子どもの情操を高めていきたいと、成長を促していきたいということで、子育て中のお母さんの相談も実施し、地域の子育てを支援しております。

昨年度の報告会におきましても、田中先生に、保護者の意見はどんなものであるかということでお聞きいただいたんですけども、その返事まだ聞いてなかったんですけども、昨年度は、昨年度に比べて220名以上の参加がありました。その前の年の倍以上でございます。それが答えになってるかと思ってございます。

次に、生涯学習、地域活動推進事業ですけども、先ほど美園さん、三世代とありましたけれども、当地区でも世代を超えてスポーツを通じた交流を深めようということで、クロリティ、俗に言う輪投げですね、これのセットを購入しまして、競技いたしました。

輪投げというのは、ほかのスポーツよりも体力というのを余り使いません。ルールも棒に入った点数を計算するだけなんで、ルールも簡単です。子どもから高齢者まで幅広い年代の方に取り組んでいただけます。

昨年度ですけども、高齢クラブの方々とか育成会のイベントなんかにも利用していただいております。

次に、地域福祉推進事業です。地域の触れ合いと世代間交流を促進するイベントとして、フェスタ長池と銘打ちまして毎年１月にやっております。年度的に言えば昨年度ですけど、今年の１月24日に小学校で開催いたしました。今年で４回目です。そういうことでありまして、地域の１月のイベントということで、ある程度定着してきてまして、地域の皆さんが非常に楽しみにしておられます。ほかの団体等も参加して、校庭とか体育館に所狭しと、おでんやフランクフルト、焼きそばなどの模擬店や、くじ引き、お菓子釣りといった遊びコーナーが設けられております。

この写真は、会場前に、チケットということで、それに並んでる子どもさん方の写真でございます。

次ですけども、高齢クラブの方々の指導による割り箸鉄砲、これ体育館の中なんですけども、つくってもらって子どもたちに教えております。高齢者が子どもたちに昔の遊びを教える交流の風景でございます。

次に、この写真ですけども、今回から新しく校庭で遊びのコーナーということで、これ、スピードガンコンテストみたいな感じですけども、僕、何キロ出たよと、スピードガンコンテストみたいなことやりました。奥のほうに立ってるのは、スピードガンはかってるはずなんです。これは、実際はっきり言いまして役員のキャッチャー、座るほうが本当に大変でした。真っすぐボール来ません。

このように、毎年何か新しいことを取り入れて、よりより皆さんが楽しんでいただける、また触れ合いの場となるよう、そういう行事として、ますます発展させていきたいと思っております。

次ですけども、地区福祉委員会との共催で、高齢者同士の仲間づくりのイベントでありますいきいきサロン、これを２月22日に緑ヶ丘コミセンで開催いたしました。当日の参加者76名です。まず、写真にありますように、八尾市社会福祉協議会の職員の方に来ていただきまして、社会福祉協議会の取り組みについてお話しいただき、次に権利擁護センターから、成年後見制度についての説明をしていただきました。

最近、認知症の高齢者がふえまして、そこにつけ込む悪質な業者による財産の搾取が問題となっております。それが終わりましたら、地元の河内連による踊りを披露していただきました。

最後ですけど、参加者の皆さんも一緒に

なって河内音頭とか炭坑節で楽しんでいただいたということでございます。

事業の報告としては以上でございますけども、長池小学校区まちづくり協議会では、その活動を広く校区住民に周知するため、まち協だよりを昨年より２回、年に２回発行し、町会を通じて全戸配布いたしております。福祉委員会だよりとの裏表両面になっておりますけども、広報活動にも、今年１年、またこれからも広報に力を入れていきたいと思っております。今後とも地域の各団体と協力しながら、いろんな事業に取り組んでいきたいと思っております。

以上、報告を終わります。ありがとうございました。

○田中先生　ご苦労さまでした。長池も昨年、ご報告いただいて、そういう意味で、僕も連続で、ああ、ここ変わったなと思いながら聞かせてもらったんですが、昨年も多分お話ししたことで、子うさぎ教室というのは、非常に僕、有意義な取り組みだと思ってまして、実は、僕が学生と一緒にお手伝いしている枚方の小学校区でも、やっぱり月に一度、こういう取り組みをやっているんですね。そして、やるたびに参加者の方ふえていくんですね。これ、実は平成25年度から26年度、長池のほうでも220名以上の増加ということで、ご報告をいただいた中で、これが１つの実績というか、証しだろうと思っています。非常に、地域住民にとってもニーズの高い、特に子育て世代のお母さん方、やっぱり、つながりたいし、先達のいろいろ知恵に助けてほしいというようなことがあると思いますから、ぜひとも中身を充実させて、できたら来年度、今年度、アンケートをぜひ、お母さん方に実施をして、どういう思いでこの教室に臨まれて、どんな効果があったんかと、その辺のリサーチをやっていただくと、よりいいものに磨かれていきますから、ぜひ頑張ってほしいなと思います。

それから、生涯学習の件で、スポーツ輪投げ、結局、これ高齢者のやれるようなものを取り入れてるというのは、すごくいいことだと思うんですね。特に、意識は恐らくされてるんだと思いますが、三世代交流も兼ねておられると思います。写真で見たらわかるように、孫世代とおばあちゃんと、当然、お父さんお母さんもできるわけですから、こういうような同世代もできるようなものをニュースポーツというふうに呼んでますけど、どんどん取り入れて三世代の交流をしかけていくというのは、非常に有意義だろうなと思って聞いてました。ぜひ、こういうものの中身を充実させて、これからも進んでいってほしいなと思いました。

最後に、冒頭に、長池のほうは目標を立ててておられて、福祉サービスをできるようなまちにしたいというような目標、大目標ですね、掲げられてますね。その一環として、いきいきサロンというのをやって、社会福祉協議会さんだとか、こういうようなみんなで少し踊りをしたりだとか、親睦を図っておられる。最終的に、福祉サービスの提供という中で、どういうところまでをやっていきたいと、候補として、何かそういうお考えございますか。

○清水氏　今現在、参加者はある程度限られてくるわけですね。それはある意味地域で、今は高齢クラブもあるし、いろんなクラブがありますんで、そういうのを全部巻き込むという言い方悪いですけども、できるだけ広げていきたい。参加者を多くしていきたいと、そういうぐあいに考えております。

○田中先生　恐らく副市長のお話にもあっ

たように、１人でお住まい、あるいはご高齢のお２人で住む世帯というのが、相当数ふえてくる。だから、そのときに必要なものって何かというふうに、少し先を見越して今から準備を進めていかれると、僕自身、恐らく買い物ができなくなったりが非常に大きいんではないかなと思ってるんですが、ぜひとも知恵を絞って、こういうようなことを取っかかりにして進めていってもらえたらなと思います。また、来年度、もし機会があれば楽しみにしております。ありがとうございました。

［高安中学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○井東氏　高安中学校区まちづくり協議会、井東でございます。よろしくお願いをいたします。

高安地区について紹介いたします。

自然環境に恵まれ、古墳などの文化財が多く残っていて、古代より人々の営みが続く歴史の深い地域です。

現在、校区内のほとんどは、市街化調整区域であることから、昔ながらの町並みは色濃く残っています。その反面、人の出入りが少なく、少子高齢化が他の校区よりも進んでいるといった問題も出てきています。

高安まちづくり協議会についてですが、キャッチフレーズは「強い絆と緑あふれる高安の里」を掲げています。

地域が安全・安心で住みよいまちに発展することを願い活動を行っています。

では、平成26年度に取り組んだ内容や成果を紹介させていただきます。

まず、ＡＥＤの普及啓発について説明します。地域の活動拠点である各町会の集会所に設置を進めています。

高安地区には、11町会があり、そのうち10町会に集会所があります。住民の間では、会館と呼んでいます。写真はその会館の一例です。

ＡＥＤ設置状況ですが、平成24年度より設置を進めており、平成26年度は４カ所の集会所に設置しました。

設置状況です。建物の入り口付近で見えやすいところで設置しています。

救命講習状況です。ＡＥＤの取り扱い説明とともに、救命講習を実施しました。設置した集会所にて、それぞれ実施いたしました。主に、町会や各種団体の役員さん方が集まっていただきました。

参加者の感想として、いざというときにうまく使えるか心配、祭りのときには皆に知っておいてもらおう、使うことがないことが何よりといった声が聞かれました。

成果ですが、全ての集会所に設置が完了しました。今後もＡＥＤの普及が進むことから、より多くの人がＡＥＤに関する知識や救命方法を習得し、いざというときの安心感が持てることを期待しています。

今後の取り組みですが、防災訓練などの機会に合わせて講習を実施し、啓発に努めます。

次に、防災事業について説明します。

高安中学校グラウンドにて防災訓練を実施しました。交付金を活用して、訓練の一つとして炊き出し訓練を実施しました。

炊き出し訓練の内容ですが、災害時の避難者を想定し、現地で一から調理を行いました。メニューは、豚汁とお湯で戻すアルファ化米を200食分用意しました。

各町会から数名ずつ参加していただき、協力して調理をします。

災害の断水を想定し、水はペットボトル水を利用し、プロパンガスで沸かします。野菜もペットボトル水で簡単に汚れを落とす程度です。

防災訓練が完了した後、豚汁とご飯を現地で試食しました。

災害用備蓄も行っています。

各町会の集会所は、緊急時の一時避難場所として機能するように、食料の備蓄を進めています。

防災訓練時に備蓄の説明を行い、各町会の集会所へ配りました。

成果ですが、調理器具の保管状況やアルファ化米の調理方法など、実際やってみて気づくことが多くありました。

また、器によそう分量のかげんが難しく、参加者全員に行き渡らず、何人かは試食を我慢していただきました。

今後の取り組みですが、昨年は広島で土砂災害が発生し大きな被害となりました。同様の災害は、高安地区でも想定されることから、今後も継続して訓練を行い、住民の防災意識や災害時の対応力を向上させることが大切と考えています。

次に、青少年健全育成事業について説明します。

まず、高安の里マラソン大会です。

ＰＴＡと学校園の主催で、毎年12月に開催されます。

幼稚園から中学校までの全児童・生徒が参加します。

マラソンは、高安中学校を出発し、地域の一般道路を走り、中学校へ戻ってくるコースです。中学生は、各町会をめぐる10キロメートルのコースを走ります。

沿道では、住民から小旗を振った応援があり、介護施設の前では、入居されている高齢者も車椅子で応援してくれます。

マラソン大会は、地域住民、学校園が一体となって開催する地域ぐるみの恒例事業です。

選手は一般道路を走ることから、安全確保や通行車両への周知が必要です。

また、校区まちづくり協議会の支援として、啓発用にのぼりや横断幕を作成し、注意喚起したり、大会関係者に校区まちづくり協議会で作成したピンク色のジャンパーを着てもらい、見守りを行ってもらいました。

次に、高安子どもオリンピックです。中学校の体育館で開催しました。

高安地区の年長児から小学６年生が対象で、子ども会加入の有無は関係なく参加ができる事業で、平成26年度から始めた新たな取り組みです。

競技は全て個人競技です。個人競技とすることで、誰かと直接競うのではなく、得意・不得意にかかわらず、全ての競技において精いっぱい頑張る姿勢を養うことを目的にしています。

10種目の競技の得点を、首からつりさげた成績表に記入します。

競技の幾つかを紹介します。

大声コンテスト、騒音測定器で声の大きさをはかります。ちなみに叫ぶ言葉は「ありがとう」です。

缶積み、決められた時間内により高く缶

を積み上げます。

スリッパ飛ばし、片方の足のスリッパを飛ばします。力が入り過ぎると、前に飛ばずに上に飛んでしまいます。

紙ヒコーキ飛ばし、２階の通路から紙ヒコーキを飛ばして距離をはかります。

そういったユニークな競技で、子どもたちは大いに楽しんでいました。

成果ですが、子どもの人数が減っており、あわせて子ども会の加入児童が減っていて、これまで団体競技、ソフトボールや綱引きが難しくなってきています。

子どもオリンピックは個人競技として、また子ども会未加入児の参加も呼びかけることにより、地域の子どもが、みんな楽しめる大会となりました。

今後の取り組みですが、今年度も引き続き第２回大会を開催する予定です。地域の恒例行事になればと思います。

一緒に会場へ来られた保護者と役員が接点を持つことで、地域活動のＰＲと、参加へのきっかけになることを期待しております。

以上で報告を終わります。

○田中先生　どうもありがとうございました。

高安という地域は、昔から名前だけは聞いていて、２度ほど市役所の方と車で回らせていただいたことあったんですけども、今日は初めて取り組みを聞かせていただいて、なかなかすごいことやってるなと思い、感心して聞いてました。

何より、事業ごとに成果をまとめ、今後の取り組みはこういうことをしていきますという、整理の仕方が非常にきちんと振りかえられていてわかりやすいなと思いました。ぜひともこういうことは続けてほしいですね。

その中で、やっぱり地域柄というのがすごく出てるなと思うのが、青少年健全という、子どもを巻き込んで何かをやるというところが、なかなか都市部の地域では難しいようなことができてるのかなと思ったんですね。

例えば、高安の里マラソン大会というのが、これ驚いたんですけど、幼稚園から中学校まで全部の児童・生徒が参加をしてやられてると。

ちなみに、ボランティアで校区まちづくり協議会とそれにかかわったり、それから沿道の、恐らく旗を振る住民の方とか、そういうサポートの住民の方というのは、大体どれぐらいかかわられてるんですか。ざっとでいいんですけど。

○井東氏　ざっとＰＴＡとか青少年指導員とか、ほかにいろいろとで。

○田中先生　沿道の応援する人も含めてもらったらいいんですけど。応援してる人も、車椅子のおばあちゃんとかも写ってましたね。

○井東氏　道で応援してる人。

○田中先生　そういうのも含めたら、どれぐらいの人がかかわっておられるのか。

○井東氏　全部でざっと1,000人から1,300人ぐらいですね。

○田中先生　ちなみに、校区の総人口は幾らですか。

○井東氏　総人口は9,000人ぐらいですね。

○田中先生　ということは、ざっと７分の１ぐらいの人がかかわっておられるということですね。

○井東氏　そうですね。

○田中先生　だから、それはかなり奇跡的というか、すごいなと思うんですよ。そういう地域柄でやられておられるんだなと思うし、子どもオリンピックみたいなことも、

非常にユニークな楽しみながらやられる取り組みですよね。

僕は、一つのキーワードに思ってるのが、地域の持続可能性みたいなもので、最近すごく自分でも関心持ってるんですね。もちろん、今のニーズとか今の問題とかも解決していかないといけないんだけども、やっぱり30年後にも人が住んでて、そして子どもがいて、続いてなかったら地域として意味がないだろうと。だから、そのためには、やっぱり、今いる子どもたちが、この地域ってやっぱりええな、どっか心の片隅に残るということは、すごい、私、大事だと思うんですね。これやっぱり、こういうしかけは、今はどう思ってるかわかりませんけど、少なくとも大人になってから、やっぱり思い出すというか、心に残るんだろうなと思うんです。

だから、ぜひとも手をかえ品をかえ、こういう青少年健全育成みたいなところを、一部の人だけがやってるんじゃないというのも、すばらしいと思うんだけども、もっともっとたくさんの人がかかわるような形で、これからの構想をしていってもらったら、恐らくこの高安中学校区は、30年後も40年後も変わらず続いてる地域であり続けるんだろうなと思って、僕は今日聞きました。ありがとうございました。

［曙川小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○中西氏　皆さんこんばんは。曙川小学校区まちづくり協議会の中西でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

平成26年度の校区まちづくり交付金における曙川小学校区の活動報告をさせていただきます。

私たちのまちである曙川小学校区は、「八尾木の民芸つくりもん」にみられるとおり、古くからの歴史に根づいたまちで、古きよき文化と新しい文化が融合した魅力あふれるまちでもあります。地域活動も活発であり、小さいお子さんから高齢者まで世代を問わず誰もが参加することができるような催しを企画しております。

まず最初に、伝統文化継承事業でございます。

曙川地域には「八尾木民芸つくりもん」と言われる昔から行われている伝統行事がございます。

江戸時代の中ごろから、その年に収穫した穀物や野菜を使って、人形や動物などの等身大の「つくりもん」をつくり、飾りつけをして見物をしてもらうことにより、その年の農作物の豊作を喜び、あわせて次年の豊作を願うというもので、原則として毎年９月の最終土曜日と日曜日に保存会主催にて開催されております。

こうした文化を次世代に継承し育んでいくことこそ、まちづくりの重要な点であると考え、曙川小学校区まちづくり協議会では、ＰＲ用のクリアファイルを作成し、校区内の小学校や幼稚園などに配布したり、会場に来場された方々に配ったり、広く普及啓発に努めております。

これからも当地域のみならず、八尾市においての伝統文化の一つとして、大切に育てていきたいと考えております。

続きまして、地域の憩いの場づくり事業でございます。

小さいお子さんから高齢者の方まで、気軽に集えて楽しく、また文化的な催しが開催できないものかといろいろと考えた結果、計画できたのがまちづくり協議会主催の「クリスマスコンサート」です。

12月７日の日曜日、曙川コミセンの集会室に、武庫川女子大学卒業の音楽グループ「マリー」の皆さんをお招きして盛大に開催し、ＮＨＫの朝ドラをはじめ、みんなが聞き覚えのある楽曲を中心に、美しい歌声にいやされた１日でした。

続きまして、同じく地域の憩いの場づくり事業でございます。

曙川小学校区まちづくり協議会主催の世代間交流の一つとして、昨年度に引き続き１月25日の日曜日に第２回グラウンドゴルフ大会を開催いたしました。

会場の曙川小学校運動場には16チーム、96名の参加者がそろい、まちづくり交付金で購入したゴルフセットを使用して、熱戦が繰り広げられました。一般の部と小学生の部に別れ、ベテランの方も初心者の方も、ともに和気あいあいとプレイを楽しんでおられました。

グラウンドゴルフは、誰もが気楽に楽しめるスポーツとして、今後もみんなで盛り上げていければと考えております。

次に、災害に強いまちづくり環境整備事業でございます。

曙川小学校区では、住民同士のつながりが強く、助け合いの気持ちも強い地域であると自負しております。防災に対する取り組みも早くから行い、平成24年度から実施している防災研修を平成26年度においても実施いたしました。

本年は兵庫県神戸市にある「人と未来防災センター」を訪問し、平成７年１月17日に発生しました阪神・淡路大震災の記録映像や数多くの貴重な資料を見学させていただくとともに、語り部さんによる当時の状況のお話をお聞きして、地震をはじめとした災害における備えがいかに大切かということについて、参加者みんなで認識を新たにいたしました。

あってほしくない災害ですが、こればかりはどうしようもないことであり、もしものときのためにどうすればよいのかを、地域のみんなで考え、行動を起こしていきたいと思っております。

続いて、私たちの地域で行っている防災訓練の風景です。

毎年３月に行います地域ふれあい教室に先駆けて、地域住民に呼びかけて防災訓練を行っています。

町会ごとに集合された皆さんに、順番で煙中体験訓練・ＡＥＤによる救急救命訓練・応急担架訓練・水消火器体験などを体験してもらいました。

訓練の最後には、参加者全員によるバケツ消火リレーが行われ、みんなが協力して取り組んでおられました。

最後に、青少年の健全育成と元気が出るまちづくり事業でございます。

私たちの地域では、子どもたちの登・下

校時の見守り声かけ運動として、校区の主要な地点に地域の各種団体会員が立ち、安全に子どもたちが登・下校できるよう見守っております。

また、学校が夏休みに入ると、夕方から夜間にかけて公園やコンビニ、学校など校区内をくまなく巡回し、子どもたちが遅くまで遊んでいる姿などを見かけると声をかけるなど、地域が一体となって青少年の健全育成に努めております。

そのほか、私たちの地域では、子育て世代を対象としたイベントや取り組みが熱心に行われ、まちづくり協議会でも交付金を活用して、組み立て式マットなどを使い、子どもたちや保護者のために安心して各種団体が活動を行っております。

先ほどお話をさせていただきました防災にかかわる取り組みを含め、地域の安全・安心につながる取り組みは、今後も続けていくことが大切と考えています。

以上で、曙川小学校区の報告を、まことに簡単ではございますが、終了させていただきます。

報告をさせていただきましたほかにも、曙川では人権に関する標語を募集するなど、人権を尊重し、人に優しいまちづくりを積極的に進めております。

今後も、この地域に住んでよかったと思えるまちづくりを、みんなの力で実現していけるよう、引き続き頑張ってまいりますので、ご支援・ご協力、よろしくお願いいたします。

どうもご清聴ありがとうございました。

○田中先生　どうもありがとうございました。

二つお話をしたいと思いますが、やっぱり防災はほかの校区でも出てましたように、非常に大事ですから、今回の曙川さんのほうでも研修に行かれて、単に話を聞いて終わるのではなくて、きちっと実践で演習をされたということで、特にバケツリレーを、こういう少しゲーム形式じゃないんですけども、みんなで老若男女できる取り組みを取り上げてるというのが、非常にいいなと思って聞いてました。

だから、毎年、これ同じことを繰り返すんじゃなくて、今年度は、また違う形の防災訓練を、来年度は、防災訓練も縦の流れで見てたら、きちっと非常に実践的になっているというか、成長していってるというような、そういう少し設計図を描きながらやられたらいいと思います。それが一つですね。

もう一つは、これは、うん、なるほどと思ったことが、伝統文化の継承事業があるんですね。これも、実は、今日のまとめのほうでお話ししようと思ったんですけど、多分、それぞれの地域地域で、その地域にしかないものがあると思うんですね。つまり、歴史的につくり出されてきたものとか、生み出されてきたものというのは、いわばその地域の誇りだし、誰にもまねができない価値なんですね。やっぱり、こういうものを一つの柱にしながら、次世代に、自分のところの地域の宝を知ってもらって、受け継いでいくということの取り組みは欠かせないことだと思います。

それが、すなわち地域への愛着を生んでいきますから、ぜひ、こういう伝統文化継承事業というのは、保存会の人もかなり高齢化が進んでると思うんですけども、でも、それこそ、やっぱり継承していかないと、先ほどの実は高安の方にも言いましたように、地域の持続可能性は担保されませんから、ぜひとも保存会自体も担い手がうまく継承していくように頑張ってほしいなと思

います。ありがとうございました。

［大正北小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○木野氏　皆さん、こんばんは。大正北小学校区まちづくり協議会の木野と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、大正北小学校区まちづくり協議会平成26年度の活動報告をいたします。

大正北小学校区まちづくり協議会は、２事業を計画し、安全安心環境整備事業・青色防犯パトロール事業につきまして実施しました。

では、順番に説明をいたします。

まず、安全安心環境整備事業におけるＡＥＤ設置及び普及啓発について、でございます。

この事業ではＡＥＤについて、計画的に地域の集会施設に設置し、設置した集会施設で心肺蘇生法の講習をするなど、ＡＥＤの普及啓発に努めてきました。

具体的には、平成22年度の大正自治会館を皮切りに、平成23年度には南木の本東南町会館と南木の本東町会館の２ヶ所、平成24年度には南木の本新町町会館と南木の本３丁目町会館の２ヶ所、平成25年度には南木の本東北町会館と木の本集会所の２ヶ所、設置しました。平成26年度は大正住宅自治会集会所とサンハイツ八尾南集会所の２ヶ所に設置しました。

よって、現在大正北小学校区内の９ヶ所の集会所において、ＡＥＤを設置しております。

これは、理由の一つとして、町会の集会所が地域行事の拠点であり何か行事の際に倒れられた方がいらっしゃいましたら、すぐに対応できるようにという意味を込めて設置をしております。

また、各町会の集会所に設置しているもう一つの理由は、この設置を契機として、地域の方々が集会所に集まって心肺蘇生法の講習ができることです。

ＡＥＤは設置しているだけでは意味がありません。実際倒れられた方に、心肺蘇生を行いながら必要に応じてＡＥＤを使い救急隊につなげるということが、倒れられた方の救命率を上げます。

ＡＥＤを設置した後は、各町会の集会所にて必ず救急救命講習を行っています。消防の方の指導を仰ぎながら、みんなが心肺蘇生を行えるように訓練を行っています。

この写真は、大正住宅に設置した後、すぐにＡＥＤの業者の方の指導のもと、使い方を学習している様子です。

これだけでなく、この自治会では今年８月にも心肺蘇生法の講習を消防署の職員に来ていただき、講習を受ける予定でございます。

こちらの写真は、サンハイツ八尾南集会所に設置した後すぐに、ＡＥＤの業者の方の指導のもと、使い方を学習している様子です。

大正北小学校区まちづくり協議会では、このように町会単位ではありますが、きめ

細やかに心肺蘇生の講習を企画実行しております。

このことが、地域の安全安心につながるものと考えております。

次に、青色防犯パトロール事業についてです。

もともとの活動は、八尾南産業クラブが、大正校友会という大正小学校・大正北小学校・大正中学校それぞれのＰＴＡのＯＢ・ＯＧの方々を中心とする会の協力を得て、活動を実施されてきましたが、構成員が働いている世代の方々で、活動する時間帯は主に夕方から晩の時間帯になっていました。

そこで、大正中学校区にある二つの校区まちづくり協議会、つまりは大正小学校区まちづくり協議会と大正北小学校区まちづくり協議会がカーシェアリングの考えの基に、１台の車で南隊と北隊が連携して実施することで、児童の下校時間にも実施することができるようになりました。

また構成団体の協力や一般市民への参加呼びかけによる増員を見込み、さらなる事業拡大、例えば朝の時間帯への拡大などを見込んでいます。

構成員につきましては、最初は大正北小学校区の隊員は３名でした。

現在参加している担い手を通じて参加を呼びかけたり、自治会や町会に呼びかけたりした結果、徐々にふえてきており、ただ今30名程度にまでなっております。

先ほど、大正北小学校区まちづくり協議会と大正小学校区まちづくり協議会が１台の車で連携して実施していることを申し上げました。

これは、平成27年度からになりますが、車を１台ふやして北隊専用の車をリースすることになりました。

少しわかりにくいですが、この写真は先ほどと別の青色防犯パトロールになります。

ただし、大正小学校区まちづくり協議会と大正北小学校区まちづくり協議会の協力関係はそのまま維持され、南隊が活動するときは大正北小学校区も、北隊が活動する場合は大正小学校区も巡回するというように、お互い助け合いながら活動したいと考えております。

地域活動をしていただく担い手が少ないということはどの地域でも課題ですが、このように隣同士の地域が助け合うことにより、少しでも補うことができるのではないでしょうか。

先ほど申し上げたように新規の隊員も、隊員の呼びかけを通じて増えてきており、新規の隊員のために青色防犯パトロール講習会も行っております。

大正北小学校区の特徴として、各町会では活発に事業を行っており、地域のつながりが深いものがあります。

しかしながら、違う町会の方同士の交流というのは余りなく、担い手同士が知り合いになるという機会は少ないように思います。

このように青色防犯パトロール活動が行われることを契機に、違う町会の担い手同士が知り合う機会がふえ、意見の交換の機会も増えつつあります。

昨年度は、安全安心環境整備事業・青色防犯パトロール事業の２事業となっておりますが、今年度以降は、いろんな事業を展開していこうと考えております。

例えば、今年度は当校区まちづくり協議会主催で、子ども向けのコンサートや、高齢者向けの事業を考えております。

いきなり多くのことはできませんが、会議で事業計画を検討しながら、校区まちづくり協議会の活動を少しずつできるところ

から実施していきたいと考えています。

それではこれで、大正北小学校区まちづくり協議会の発表を終わります。

ご清聴ありがとうございました。

○田中先生　どうもありがとうございました。

青色防犯パトロールのことなんですけども、毎日夕方、活動されてるということでよろしかったですか。

○木野氏　はい、そうです。

○田中先生　当初、３人だけだったのが、今、30人にふえておられるということですね。非常にいいことだなと思います。

また、こういうふうなパターンもあるんだねと思ったのは、実はほかの隣接する校区まちづくり協議会と連携してやっておられることなんですね。だから、何も全てのことを一つの小学校区単位の校区まちづくり協議会で完結をしないといけないわけではなくて、今回の大正北のように、隣と連携できるところはやっていいんだというような一つの事例と思って、僕は聞いてました。

その上で、青色防犯パトロールというのは、じゃあ、これは何のためにあるのかというふうに考えたら、この青色防犯パトロールというのは、地域内を、いわば、できたら朝から毎日やりたいというようなことをおっしゃっておられたように、巡回することで地域内の犯罪というか、ひったくりであったり、空き巣であったり、そういうものを未然に防いでいこうということが、本来の狙いだと思いますから、単にこれを流してること自体に目的があるわけじゃないわけですよね。ですから、この青色防犯パトロール事業をやられることで、校区内の犯罪がどのように減っていったのかというようなデータも、実は整理をしていかれると、目に見えて効果というものが確認できると思います。

実はこれ、たしか西山本だったと思うんですけども、そういう地域内の犯罪が、実は校区まちづくり協議会の取り組みのおかげで減ってきてるいうことを証明していますから、それらも参考になされたらどうでしょうか。ぜひとも警察と連携して、こういう青色防犯パトロールを一つやることで、地域内の犯罪が減ってきてるねというふうなことも、そういう視点で見ていかれると、もう少しこの辺、回らなければいけないかなとか、この時間帯、回らなければいけないかなというような戦略が立てられると思いますから、ぜひともそのように発展させていってもらったらなというように思います。ありがとうございました。

［安中小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○田中氏　こんばんは。安中小学校区まちづくり協議会、総務部会の田中です。よろしくお願いをします。

私たちのまちづくり協議会では、わがまち推進計画の目標に沿う形で、子どもの育成、高齢者の支援、安全・安心のまちづく

り、住民同士の交流など、さまざまな取り組みを行っています。

今日はその中から、平成26年度新たに始めた取り組みを中心に報告したいと思います。

まずはじめは、青少年健全育成事業です。福祉部会が担当しています。

校区まちづくり協議会では、部会制をとっており、部会ごとにそれぞれその年に実施する事業や取り組みを計画し担当しています。

子どもたちが伸び伸びと元気に育つように、いろいろな活動を行っていますが、昨年度夏休みより、子ども会やＰＴＡと協力し、新たに校庭キャンプを始めました。写真は、そのときの様子です。キャンプ用テントを購入し、自分たちで組み立てを体験しました。「これ、どうするんやろう」「これ、できるんかな」と、子どもたちはお互いに相談しながらそれぞれのテントを張りました。

カレーライスは材料を切って、でき上がりをわくわくしながら待ちました。

ご飯は、お米とお水があれば、誰でも簡単にご飯を炊くことができるハイゼックスでつくり、地域で災害用に購入しストックしております。普通の炊き出しより簡単にできるので、保護者の中からも、「へえ」と興味を持つ様子が見られました。

楽しみつつ、ふだんできない体験をする機会にもなってよかったなと思います。

たくさん遊んだあとは、カレーがとてもおいしかったと思います。

そのほかにも、子ども会の加入をふやすための子ども会一日体験イベントなども引き続き実施しています。

次は、高齢者・障がいのある人の支援事業についてです。

こちらも福祉部会の担当です。まずはじめのスライド、ふれあい喫茶です。まずは、１回やってみようということで、試したのですが、「こんなん、もっとやってほしいわ」「また、来たいね」という声がたくさん寄せられたことから、定期的に行うことを決めました。

コーヒーメーカーやテーブルクロス、おそろいのエプロンなどを購入し、また、のぼり・喫茶の看板を作って皆様のご来店をお待ちいたしました。おかげで毎回たくさんの方が来ていただきました。

100円でコーヒーや紅茶、お菓子を提供し、おかわりは自由です。好きな時間に来て、好きな時間に帰るフリースタイル、意外と男性参加が多いです。「おいしかった、ごちそうさん」といって帰っていただき、気軽に楽しく集まる場所ができたことで、地域の人たちにもとても喜んでいただいています。

もう一つ、いきいき体操教室の様子です。もともとは女性会の方が月２回集まって体操をされていたのですが、年２回、校区まちづくり協議会とコラボして会員以外でも気軽に参加できるようにしました。

若い人には負けないぞとばかり、皆さん元気に体操されています。音楽に合わせてリズミカルに汗を流し、高齢者パワーは健在でした。

健康づくりでは、グラウンドゴルフがとても盛んな地域ですが、屋内の体操も盛り上がればいいなと思います。

続いては、安全安心のまちづくり事業です。

これは、新規事業で、子ども交通安全教室の様子です。安中は交通量がとても多い地域で、自転車と歩行者との事故が危ないという声があり、子どもたちに正しい交通

ルールを身につけてもらって、自動車事故を防ごうという思いから始めました。

校区まちづくり協議会では、防犯部会が担当しています。当日は、300人もの参加があり、大盛況です。警察協力のもと、運動場に自転車の模擬コースをつくり、正しい交通ルールや自転車のきちんとした乗り方、マナーなどを学びました。

遊べるコーナーとして設けた「おもしろ自転車体験コーナー」では、子どもたちのすばらしい笑顔が見られました。

頑張って勉強した子には、最後に顔写真入り子ども免許証を発行し、「ほんまの免許証みたいや」といってうれしそうに持って帰っていました。

暑い中でしたが、この体験を思い出し、安全に自転車に乗ってくれたらいいですね。

次は、救命救急講習会の様子です。

こちらは、防災部会の担当。３時間という長丁場でしたが、皆さん真剣に講習を受けてくださいました。グループに分かれ、指示を出す人、ＡＥＤをとりに行く人、救急車を呼ぶ人など、役割分担をしました。

初めは、少し恥ずかしくて、声が小さい人もいましたが、緊急時でも慌てずできるよう頑張って声を出して練習しました。

最後は１人ずつ修了書を受け取って、達成感を味わいました。

その他、安全安心の取り組みとして、災害時に備えるための防災用備品の購入や、防犯講習などを行いました。

次は、きずな事業です。

地域のふれあいまつりで、校区まちづくり協議会の取り組みでも１番大きなイベント、安中フェスタです。

昨年からいろんなボランティアグループ・団体・学校にも声をかけ、中でも中学校の科学部が体験ブースを出してくれたり、小学校民芸部が踊りを披露してくれて、まつりに花を添えてくれました。

焼きそばなどの模擬店や手づくり体験ブースはどこも大忙し、体力測定コーナーでは、このときとばかり、お父さんの偉大さを見せつけようと頑張っておられましたが、結果はどうだったんでしょうか。

それ以外にも、ＪＲ八尾駅駅員さんもイベントを開催してくれました。野菜販売も好評で完売、お手伝いいただいた農家の方に感謝です。

このように安中フェスタは、地域の人たちだけではなく、地域の関係機関も一緒になって地域を盛り上げようと頑張っています。

スタッフＴシャツもつくりました。「これ着てお手伝いするわ」という人が増えてもらうことを願っています。

今年も新たな試みを企画中、たくさんの人に参加してもらえ、地域交流の柱として、これからも成長していけるといいなと思います。

次は、みそづくり講座の様子です。

昨年度から、ついに公開募集することになり、餅つき機など追加で購入しました。こねるのに少し筋肉痛にはなりますが、今はその苦労が報われて、おいしいみそに舌鼓を打っていることと思います。みそづくりが伝承できる人がどんどんふえて、より多くの方がみそづくりに挑戦してくれる地域にしていきたいと思っています。

最後は、広報活動です。

まちづくり通信を毎年３回発行し、年１回は自治振興委員会に協力してもらい、全4,000世帯に配布しています。

昨年度は、掲示板に貼る用のカラー版をつくりました。ホームページも随時更新しています。どちらも素人が作るもので、大

したできではないんですが、私たちの思いが伝わるように頑張って作っています。

若い人たちに関心を持ってもらいたいということですが、情報の発信方法など、まだまだ試行錯誤が続くかと思います。

簡単ではございますが、以上が安中小学校区まちづくり協議会の報告です。ご清聴ありがとうございました。

○田中先生　安中小学校区さん、どうもありがとうございました。

安中さんも昨年も、たしか私が担当した回で報告してくれましたので、そういう意味で、ちょっと連続性を意識しながら聞かせていただきました。

例えば、校庭キャンプのとこであるとか、ふれあい喫茶は、多分昨年はなかったことですね。

○田中氏　そうです。

○田中先生　精神として、例えば、校庭キャンプを楽しみつつ、ふだんできない体験としてやりましたとか、ふれあい喫茶も、まずは、とにかく１回やってみようという、だからそこの活動の根本にある思いみたいなものがすごく大事というか、ほかの校区にとっても参考になる部分じゃないかなと思って聞いてたんですね。

その一つとしてふれあい喫茶、これは今年度もずっと定期的にやられていこうというお考えですか。

○田中氏　今のところは、隔月、第３金曜日ということで、そのほかは、また随時、人の集まり方とか、お手伝いしていただいてる方が増えていけば、随時回数をふやしていこうとは思っております。

○田中先生　これ、非常に大事なことだと思うんですね。やっぱりご高齢の方というか、働いてるときっていうのは、家があって仕事場があって、何となくそこで人間のバランスってとれるんですけども、一方がなくなった状態で、特に男性の方が多いんですが、家庭だけが、要するに家庭に10割の軸足置けないというか、かといって地域活動を今までやってきたかというと、サラリーマンの人はあんまりやってない人が多いですから、なかなか地域にも出にくい。でも、こういうみんなが地域の人が何となく気楽に寄れる場所があれば、そこをまた中心にして、何か次の活動をやっていこうと思うかもしれない。だから、僕自身は、ふれあい喫茶的なサロンはすごく大事な取り組みだと思ってます。

最近、団地をよく抱えておられる地域というのは、空き室が増えてまして、団地の空き室を使って、例えば、少しランチ提供を、団地に住まわれているご高齢の方が集まってもらったりとか、そういった取り組みが増えてきてますから、ぜひ、今年度は隔月、来年度は毎月、じゃあ、やっていこうと、その次は、できたら毎週１回やっていこうとかいうふうに、発展させていってもらったらいいんじゃないかなと、非常にニーズの高い事業だと思ってます。

それから、きずな事業のところで、これも非常に、ほかの校区もやられておられるかもしらないけど、ホームページをつくられてます。あんまり大したことないというふうに謙遜されましたけども、これも非常に大切なことで、ホームページみたいなもの、デジタルツールを使い、でも一方で、まちづくり通信のようなもの、紙ベースの全戸配布も行っていくことが大事であると。結局、まちづくりとか、地域づくりのアンケートをとったときに、大体どの地域でも共通してるんですが、なぜあなたは地域づくりとかまちづくりやってないんですかと訊きましたら、回答が、きっかけがなかっ

たから、知らなかったからっていうの、すごい多いんですよ。ひょっとしたら、こういう層は、知ったら、理解したら、いうたら田中さんのような立場になるかもしれないということなんですね。

そのためには、知ってもらわないといけない。実は、これはどの校区も、あんまり、簡単なようで実は、本気でやってない、やれてないとこだと思うんです。だから、地道な、非常に地道な活動はあるけども、自分たちから、日々こんな活動をやってますよ、どうですかというような形で、巻き込んでいくツールとしては大事だと思いますから、現在では、若い人なんか、特にフェイスブックとかツイッターというのが好まれてますよね。ですから、フェイスブックとかツイッターも使いながら、安中の活動を、もっともっと広げていってもらえれば、多分担い手が、いろいろ目に見えてない人が入ってくるんじゃないかというふうに思いました。頑張ってください。

［南高安小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○高山氏　皆さん、こんばんは。南高安小学校区まちづくり協議会の総務部会長の高山です。

今日は、応援が後ろに来ています。ありがとうございます。

まず、これはうちのキャラクターです。まつりの布団太鼓をこういう形でキャラクターにしています。

今年から、もう一つキャラクターが増えています。それは来年の成果報告会で言いたいと思います。

うちの校区まちづくり協議会の事業を四つだけ説明いたします。まず、歴史伝統文化事業から報告いたします。

昔あそび祭を行いました。先ほど長池さんが報告していましたが、よく似たものをしています。昨年からうちは始めました。これは輪ゴム鉄砲です。

こちらは将棋の場面です。結構強い子がいました。私も負けそうになりました。これは、ビー玉ころがしですが、最初に板を置いて、子どもたちが勝手にくぎ打ち、遊んでいました。

これは竹馬、竹ぽっくりです。竹馬は、私は作れませんが、年配の方が上手に作っていました。見習わないといけないと思いました。

これは射的をしているところです。

次の事業になります。青少年育成事業で行ったのが、夜店祭りと焼きイモまつりです。先ほどの昔あそび祭が５月で、この夜店祭りは８月に行いました。焼きイモまつりは12月に行いました。間を置いてしています。

夜店祭りで実施したブースがこちらの貼り紙です。夕方の６時ごろから始めました。かき氷に子どもが並んでいる写真です。

これは魚釣りです。この缶バッジを三つ釣ってもらいます。その三つの色によって、景品を渡します。四つ釣ってしまうと、ドボンになり景品なしになっています。子どもたちには釣るのがおもしろかったようで

す。

こちらは、お箸に番号をふっていて、三つ引いてもらい、数字を当てるゲームです。その数字を申告してもらいます。三つ引いた数字の合計が80になるとかを予想してもらいます。当たったらＡ景品、近ければ他の景品。そういうふうに行っています。

これは、参加者の皆さんが並んで食べている風景です。だんだん日が暮れてきています。

こちらは、ヨーヨー釣りです。最後に花火をしているところです。これはナイヤガラというものですけれど、子どもたちは非常に喜んでいました。今の子どもは、なかなか花火ができないようです。特に打ち上げ花火は住民の迷惑になるということで、ほとんどしていません。そういうことで、普通の花火を校庭で行い、皆さん喜んでいました。

次は、12月に行った焼きイモまつりです。寒いので皆さん厚着をしていています。これは説明の様子です。次に芋を洗っています。洗った芋を子どもたちが包んでいる様子です。アルミホイルに巻いています。次は焼いているところです。さすがに子どもに焼かすのは危ないということで、大人がこのように焼いているわけです。

焼いている間、子どもたちにレクリエーションをしています。これは、電車のレクリエーションです。いろいろなことを30分くらいしました。

これは、できあがった焼きイモを子どもたちが食べているところです。この年は少し失敗しました。もう少し上手に焼く予定でしたが、芯が少し残った状態でした。

次は、美しいまちづくり事業です。このイベントは焼きイモまつりと同じ日にしました。南高安小学校には西運動場と東運動場が別々にあります。西運動場にあるポールにＬＥＤ電球をつける予定です。これはＬＥＤ電球をポールに吊り上げる作業をしている様子です。こうして昼の内に一生懸命作業をして、吊り上げていくわけです。

焼きイモまつりが終わり、最後にイルミネーションの点灯式をすることを子どもたちに説明しています。５時前で明るい中での点灯式だったので少し見にくくなっています。

ただ、なぜこの時間だと言いますと、あまり遅くなると帰りが危ないからです。その後は各自で見に来てくださいという形で、５時ぐらいから９時ぐらいまで点灯させました。夜の写真がこちらです。

次は、地域住民交流事業ということで、これは枝豆収穫祭の様子です。昨年とその前の年に行いました。今年は残念ながらできませんでした。雨の中で行いました。30世帯ぐらい集まりました。次は枝豆を畑で採っているところです。全部採らずに、ここの畝しか採っていません。枝豆を育てるのに聞きましたら、種から育てていくのに約90日かかるのです。気候が変動することで、育ちがばらつきます。育てば出荷するのとは違います。収穫する日を合わさないといけませんので、大変苦労してつくってもらっています。それが２年間して頂いた結果です。

これは、雨が降っていたので、上にブルーシートを張り簡易テントを作ったところです。次は、枝豆を枝からもいでいるところです。次は子どもたちが一生懸命、雨の中もいでいるところです。次は分けています。次は配っています。

もう一つ行ったのが地区こども会で、昨年に結成しまして、今取り組んでいる最中です。

最後に先ほどのウインターイルミネーションの画像です。30秒くらいあります。こういう感じでぱっぱっぱっぱと点滅しています。

以上で終わりたいと思います。ありがとうございました。

○田中先生　南高安小学校区の報告、どうもありがとうございました。

ここまで実は、七つ校区が過ぎてきたんですが、本当に昨年も思ったんですけど、皆さん、相当オリジナルな取り組みされてるなと。南高安さんは、昨年、私聞いてなかったもんですから、ここは独自の取り組みもされてるというふうに思いました。そして、一連のその取り組みを聞いてて思ったのは、やっぱり、校区まちづくり協議会の大きな役割というか機能の一つってこういうことかなと感じたのは、日ごろできないことを、校区まちづくり協議会を使ってやるということではないかと思ったんですね。

例えば、イルミネーションなんてなかなか大がかりなもんというのは、実際電気代も結構かかるしね、できないことだと思うし、枝豆の収穫祭にしろ、先ほど言われたように花火、僕も40代の中堅になってますけども、自分のことを思い返して、30～40年前いうたら、別に平気に家の前で花火上げていたし、平気で家の前で焼き芋焼いていたと思うんですね。ところが、今、地域でやったらアウトですね。アウトというか、何をしているのかと言っててくる人がたくさんいますから。そしたら、じゃあ、今の子どもたち、これ体験できないのかというたら、そうじゃないよねと。きちんとやれる場所をつくってあげて、大人たちがきちんとそれを見せてあげるということが、非常に大事なことだと思う。だから、たかが夜店祭りの花火かもしれないし、たかが焼き芋かもしれないけども、こうやって子どもたちを巻き込んでやっていくということは、忘れない、残っていくことだというふうに思って聞きました。

それで、恐らくほかの校区でもやってるのかもしれないけども、こういう「美しいまちづくり」事業みたいな柱を立ててやっておられるというのが、南高安の一つの売りというか、魅力につながっていくと思うし、イルミネーションって、考えようなんかもしれないんだけど、今、いろんな地域で、例えば、自治会単位でも、ここの一戸建ての世帯がみんな協力して、それぞれのお金を出し合ってイルミネーションで飾って、そこが自治会の小さい通りかもしれないけども、冬になったらきれいな通りで、実は、それがＳＮＳとかで拡散して、その時期になったら渋滞が発生するみたいな地域も起こってるんですね。

でも、その人らというのは、そういうほかの人の交流を楽しんでやっていて、来てくれた人に甘酒とか出したりしてる。

ここの南高安も、たまたま小学校でイルミネーションやってるけども、もっと美しいまちづくりをというのなら、地域の人巻き込んで、こんなイルミネーションをしかけていったら、ほかの、外の地域に向かって発信していけるんじゃないかと。当然、住んでる人も目に鮮やかで楽しいし、うれしいし、そのことで、ここの小学校おもろいこと実施しているようだと、見に来る人がいるかもしれない。だから、そんなふうにして、発展性を持たしていってもらったら、よりおもしろいしかけになるんじゃないかなと思って聞いてました。どうもありがとうございました。

［永畑小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○塚原氏　皆さん、こんばんは。永畑小学校区まちづくり協議会の塚原と申します。よろしくお願いいたします。

私どもの協議会では、今日も配布していただいてますけども、14の事業に分けてやっております。少し多過ぎるのではないかというおしかりも受けるんですけども、実は、報告書を上げるときに、年度末に報告書を上げるときに、結構便利なというふうなことで、こういう細かい事業になっております。

今日は、その中から交通安全啓発事業並びに防災力向上事業、それからみんなで進める心と体の健康づくりということで、校区のおかれています地域の状況を、まず申し上げておきたいと思います。

永畑小学校区は東西に国道25号が真ん中に通っておりまして、特に通学路については、非常に危険な状態がずっと続いてるということで、特に国道25号は事故が多いというふうに聞いております。

交通安全啓発事業ということで、この事業につきましては、平成21年度から継続的にやっておりまして、基本的に５月の第３土曜日ということで、固定してやってきてます。

先ほど申し上げましたように、子どもさんらを大事に育てていくという意味合いで、朝の登校時には、地域の方が正味ボランティアで30分から１時間程度、約60名の方が毎朝、登校日でしたら200日ぐらいあるんですかね、その中でやっていただいてます。

これ以外にも、下校時には青色防犯パトロールを年間、昨年で100回ですかね、回ってます。それから、それ以外にＰＴＡの女性会、女性の赤十字副分団長の方々というようなことで、週に１回、下校時に巡回していただいてます。

おかげさまで、大きな事故は起こっておりません。ニアミスは結構あるんですけどもね。

実際にこういうふうに八尾警察、市の交通対策課のご協力をいただいて、実際、実施訓練のコースをつくってやっております。これを６年間続けてきました。

いつも感じるのは、大体子どもさん200名、大人が100名ぐらい参加いただきます。昨年は、子どもさんが200名で、大人の方が140名ほど出ていただいて、この中で、子どもさんは、やっぱり体験をしたら確実に、ちょっと守ろうかなという気持ちが少しずつ生まれるのかと思います。

問題は大人ですよね。やっぱり、今のスマホのことについても、大人がきちんとしていかないかんかなと、同様に考えております。

これ以外に、これらの実施訓練のコースやってるところです。

これは、白バイ隊の方、１時間ぐらい来ていただくんですかね。で交流をしてもらうと。今年もやりましたけども、白バイ隊員の方が、これに乗りたいなという子が出てくれないかなというようなことを、ぽろっと漏らしておられました。

これは、３回ほどやってるんですけども、

希望者に限り子ども免許証、ライセンスを、永畑小学校の学校の電話番号をまぎれこまして、免許証番号にしております。個人情報の関係がありますので、余り細かいことはできませんけども。６年生については、ゴールドカードということで、ちょっと工夫を凝らしております。

これ以外に自転車のシミュレーターとか、あとは地域包括支援センターにご協力いただいて、弱者の交通安全ということで、それも含めて子どもさんらに体験をしてもらっておるところです。

これは、次に、防災力向上事業ということで、この２年間は余りうまく動かせてないのかなというところがあります。今年度は、来年はいい報告ができるんかなと思うんですけども、少し自主防災組織を活性化、今年度中に、平成27年度に、少し訓練をして、つなげていければと。実際に災害に備えてというようなタイトルで進めていきたいと思います。

昨年度は、平成26年度につきましては、今これは開会式ですか、訓練ですね、やってるところです。

次、昨年初めてやったんですけども、放水の訓練ということで、実際に住民の方に消防隊員の方々にレクチャーを受けて、二組ほどやっていただきました。時間の関係がありましたんで。

これも昨年度初めてやったんですけども、炊き出しを行ったということで、ギャラリーからは、体験された方からは、七味がないということで、おしかりを受けたりしてたところです。今年度も継続してやっていきたいというふうに考えております。

ＡＥＤですね、これにつきましては、実際、現在持っているのは、これが２台目なんです。残念なことに、私どものほうには校区の集会所がないもんで、随時検討していただいてるとこなんですけども、初代のＡＥＤは、会長預かりということで、行事ごとに持っていくというようなスタイルになってます。

これは、1番使用頻度の高い校区集会所、老原のほうに、そこに設置しまして、その場で使用する方に講習を受けていただきました。

これ、最後ですけども、路地とか、飛び出しが危険だということで、こういう警告板を10ヶ所ほど設置しました。今年度もまた、これを続けていきたいというふうに思ってます。

最後になりますけども、ぬくもり部会というところで、こういうふうに介護予防教室を２ヶ月に１回、包括支援センターの協力をいただきながら行ってきております。

最後に一言だけ、私どもも、4,800世帯あって、3,800世帯しか町会に入っておられないということで、そこへの案内をどうするかいうことで、専用の掲示板を、今、４地区に分かれて、２台つけましたけども、交付金を使わせていただいているということで、そういう方々にも案内をしていくと同時に、かわら版も２ヶ月に１回発行しておりますので、その中で案内をしていきたいと思っております。

どうもありがとうございました。以上で報告を終わります。

○田中先生　ありがとうございました。二つお話ししたいと思うんですが、一つは、最後のスライドから三つ目かな、セーフティアイサイン板、こういう子どもを守ろう事業みたいなことをやられてる。でも、校区まちづくり協議会の重要な仕事の一つとして、地域内に目を光らせておく、当然、自分たちで見守り隊でいろいろ回って、子

どもたちの安全・安心を守ってるとかいうような事例も今までたくさんご紹介ありましたけど、こういうサインを掲げて、実はしっかりと地域内に行き渡らせるということも大事なことなんですね。表示であったり標識であったり、あるいはのぼりであったり、もちろん、つけること自体は目的になったらだめだけども、常に更新をして、こういう新しい状態で保たれて、自分たちは、きちんとくまなくこの地域のことを見てるんだよということを示していく。単に地図だけ見て、この辺に置いとこかというものではなく、歩いて自分たちの、まず目で確認して、この辺って危ないよねって、この辺ってなんか交通事故が多そうやからとかいうのでサインはつけるもんだと思いますので、行動とワンセットになってくると思いますから、ぜひ続けていただきたいなと思いました。それから、防災の関係で、ちょっと昨年度まではうまくいってなかったけど、少し滞ってた部分があったということでした。今年度、自主防災組織を活性化させてというふうな話がありましたが、写真を見る限りでは、あんまり子どもさんとかが参加されてなさそうなんですね。たしか、冒頭の美園小学校区は、昼間に災害が起きたことを想定し、じゃあ、昼間いるのは誰か、女性の人、ご自宅の主婦、そういうのは多いでしょう。女性を中心に防災訓練をやってますというふうなご報告がありました。

僕は、もう一つ、結局昼間地域にいるのは、これいつもよく言うんですが、小学生と中学生なんですね。特に小学校の高学年と中学生というのは、非常に大きな防災に関する人材なわけですよね。だから、ぜひとも、ここの校区の小学校の、特に高学年だったり中学生を巻き込んで、こういう訓練を絶えず、いろいろしかけを変えながらやっていってもらったら、すごく体力がついてくるというふうに思いますんで、頑張ってください。

○塚原氏　報告に漏れましたけど、昨年度、小学生80名ほど。

○田中先生　参加されてる。

○塚原氏　炊き出しも含めてお手伝いをしてもらうということで、なかなか最初はね、いいものあげるから、ご褒美あるからおいでよと、釣った部分もありますけども、平成26年度に来た子は、今年度も多分来てくれるであろうというふうに期待をしております。

○田中先生　僕よく事例に出すんですけど、北九州の小倉南区なんかは、中学生がかなり体力もありますから、地域のおじいちゃんおばあちゃん、例えば、車椅子の人とか、一人で逃げられないですよね。昼間起こったら、本当にそのままというふうな状態かもしれない。だから常に、日ごろから交流を図っておいて、その子たちが、誰々君は、誰々ちゃんは、あそこのおばあちゃんをきちんと引き連れてくるんやでみたいなことをやってるんですね。これ、ぱっといきなりやれって無理です。だから日ごろからの日常的なつき合いの中で、三世代交流なんかもやりながらしかけていくと、多分広がりが持てるんじゃないかと思いますから、いろいろ手をかえ品をかえやっていただいたらと思います。ありがとうございました。

［久宝寺小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○津川氏　皆さん、こんばんは。私は、久宝寺小学校区まちづくり協議会の津川といいます。よろしくお願いします。

それでは、平成26年度の久宝寺小学校区まちづくり協議会の活動報告を発表いたします。

久宝寺小学校区では、わがまち推進計画において定められた基本目標である『心豊かに住み続けたいまち「久宝寺」』を実現するために、平成26年度において、さまざまな活動を行いました。

まず初めに紹介するのは、安全・安心まちづくり推進事業の一つとして、平成26年11月23日に久宝寺小学校のグラウンドで行いました「久宝寺地区総合防災訓練」の様子です。

この写真は、民生児童委員、更生保護女性会、そして赤十字奉仕団の副分団長らが地域のひとり暮らしの高齢者宅の安否確認を行っている写真です。

次、この写真は、８時40分、各町会ごとに集合した参加者は、会場の久宝寺小学校までの避難誘導訓練を行いました。参加者は650名でした。

９時に開会式を行い、その後、各ブロックにおいて訓練を体験、上の分はＡＥＤを使用しての心肺蘇生の写真です。下は、毛布を活用して応急担架の救出作業訓練です。

次は、上の分は、車椅子の操作訓練で、特に段差のある場所の体験は難しく、何回も繰り返している人もおりました。下は、八尾市消防団久宝寺分団によるハンモック式の特殊救護担架での救出訓練です。

久宝寺地区は、高層マンションが多いので、このようなハンモックの担架を使用しての訓練を行って、あとの分は久宝寺にある高層マンションにですね、配置しております。

次、この写真は、炊き出し訓練です。非常食600食を用意したんですが、先ほど言いました参加人員が650名で、ちょっと不足したことを反省しております。

下の写真は、水消火器を使用しての初期消火訓練です。消火器の放水時間の短いことに、知らなかったとの声が多かったようです。

次、この写真は、防災バケツリレーのものです。トーナメント方式で８チーム対抗で実施しました。１チーム50名の中には、小学生10名も含め、大いに盛り上がりました。

次、バケツの水をいっぱい入れ過ぎて途中でこぼれるチームもありましたが、特に小学生の参加で、子どもたちの保護者もそろって出場いただいたのがよかったと思います。このバケツリレーは、市民スポーツ祭でも導入しております。小さい子どもらが消防隊員に成り切っての記念撮影風景です。

この写真は、防災訓練は大人も子どもも共同して一つの目的に向かって実施できたことを、今後の推進にも生かしたいと思います。

続いて、安全・安心のまちづくり事業です。

この写真は、久宝寺小学校ＰＴＡのＯＢが中心となりグループをつくり、月３回程度のパトロールを実施しております。単にパトロールだけではなく、道路に散乱している空き缶や吸い殻を清掃しております。寒い冬の夜もパトロールを続けてきております。

昨今、どこでも地域は後継者がいないという話をよく聞きますが、久宝寺は、この若者たちに期待をしております。

次、世代間交流として、毎年９月に実施しております「好きやねん久宝寺まつり」、野外では焼きそば、おでん、かき氷など、社協からは綿菓子の、市民ふれあい課からは町会加入促進コーナー、そして、久宝寺コミセンの健康相談コーナーもありました。

次、この写真は、健康相談の中の脳年齢測定で、割り箸で豆つかみをしている様子です。

次、また、教室では、愛の献血運動が行われ、大勢の若者に献血の協力をしていただき、今年７月、赤十字より表彰されました。

これは体育館で三世代ふれあい演芸まつりの写真でございます。園児から高齢者まで、数多くの種目に出演、最後は河内音頭の盆踊りで締めくくっております。

次、ふれあい喫茶です。久宝寺では、ほっとステーションといいます。先ほど久宝寺小学校ＰＴＡのＯＢを紹介しましたが、この若者たちが、ここでも中心になって活動しております。月に１回ですけど、第３日曜日午前中、１杯100円のコーヒーで、みんな楽しんでおります。月によっては、ショートコントやマジックショー、それから三味線、頭の体操など、また健康講座も行っております。

この写真は、クリスマスのときの写真です。

久宝寺では、地域を美しくすることと、住民の交流を図る事業として花いっぱい事業を実施しております。

寺内町は、他の地区からの人も歴史を目当てに散策する人が多く、この写真は、寺井戸跡の花壇です。

次、久宝寺で１番大きい顕証寺の西側の水路も花壇で花いっぱいにしております。以前はごみも捨てられていた側溝ですが、現在は美しくなっております。

また、学校や幼稚園との交流も図っております。

この写真は、久宝寺寺内町を訪ねてこられる皆さんにと、ＪＲ久宝寺駅の改札付近に案内板を設置しました。

次、この左側を拡大したもので、寺内町の中の神社やお寺を紹介しております。

次、この右側の写真は、寺内町の通りを写真で説明しております。

次、階段をおりたところも久宝寺の緑地の方の案内と、寺内町の方の案内を矢印でやっております。

また、駅前ロータリーにも矢印で案内板を設置いたしました。

次、最後になりますが、毎年春に実施している長瀬川周辺の桜まつりの写真です。６町会が合同して、３月中旬から約１カ月、ぼんぼりを設置し、夜間は10時までライトアップ、桜の枝には、俳句や川柳の短冊をつり、花見に来た人に楽しんでもらっています。４月には、１日だけの催し物として、模擬店を行い、今年は川下りの船を浮かべ、子どもたちに喜んでいただきました。

例外ですが、番外でちょっと説明させてください。

三色だんごの旅物語ということで、平成27年４月４日土曜日、桜まつりの開催され

ているＴ町会では、毎年恒例のように三色だんごを町会の人はもとより、他の地区から来られた花見の客にも、無料で１本おすそ分け。係の人が「だんごはいかがですか」と声をかけている。たかが１本のだんごでも、満開の花の下で味は格別。中には三世代そろって串だんごを持ち、桜と一緒に「はい、チーズ」。これまでは、毎年よくある光景なんですが、今年は、串だんごにとって思わぬ出来事がありました。桜まつりを同時開催している隣のＳ町会の町会長さんが来られ、来賓用に用意した串だんごを差し上げ、その町会長さんが、途中花見をしておられる高齢者に、「今、Ｔ町会からもらってきただんごやけど、食べへんか」とおすそ分け。そのお高齢者はうれしかったんでしょうか、埼玉県におられる妹さんに電話して「今、花見でだんごもらってん」と言う。その町会長さんとその高齢者は、後で聞いたら親戚関係だったそうです。串だんご１本のお礼が埼玉県から久宝寺まで、本当にだんごの値打ち。串だんご、今年はよく頑張ったね、褒めてやってくださいということで。

以上、終わります。どうもありがとうございました。

○田中先生　津川会長、どうもありがとうございました。

実は、久宝寺小学校区は、よく呼んでいただいて行ってるところなんで、内容は見聞きしてるのですが、それでも、こういうことあったのかなというふうに、改めて今日は勉強になりました。

それで、一つ特筆すべきことは、地域資源を発掘したり見直したりして、それをもとにして地域づくりを行っておられるし、それを地域の中だけにとどめるんじゃなくて、ちゃんと外へもＰＲして、外に対するおもてなしみたいなものもできているんだろうなと。やはり地域をつくっていく一つの大事なことというのは、自分たちの、これほかの事例でも何度も言いましたが、自分たちの地域資源をしっかりと位置づけて、それをいわば地域住民のつながりの道具にしていくということが大事だと思うんですが、久宝寺の寺内町の案内表示のところなんか、駅から実は、ずっとサインがあるわけなんですけども、これも自分たちで歩いて、自分たちできちんと認識して理解しないと、こういう地図っていうか案内はつくれないわけですよね。だから、つくること自体は、もちろん外向けに大事なんだけども、これを設置するまでのプロセスで、恐らく相当地域住民の人がつながりながら自分たちの足元を見詰め直すみたいなことができてるんだろうなと思って、そこの想像を僕はしました。

桜まつり、やっぱり船を浮かべるという、この遊び心が、これはやっぱり川が流れてないとできないことだし、桜がないとできないことですから、こういうのは最大限に活用して、楽しんでもらえたら、もっともっと地域のことを地域住民の皆さん愛するようになるんじゃないかなと思いました。

それから、花いっぱいの交流事業も、これも花、プランターを置かなければ単なる側溝で、側溝も実は汚かったんやという話がありました。これも、だから視点を変えたら、実はこうなるんですね。こういうプランターに花を植えるというのは、住民の横のつながりの運動としても、非常にしかけやすいですし、比較的いろんな意味で補助金なども使いやすいこと、目に見えて成果も出てきますから、こういうような自分たちでやることに対して、それが張り合いにもなってくるし、実は外から訪れた人に

とっても、ここってすごいおもてなししてくれてるんやな、地域に対する印象が上がるんですね。だから、こういう取り組みはぜひ、続けてほしいなと思いました。

最後に、一つだけ、非常に若い人の巻き込み、恐らく中堅世代だと思いますが、小学校のＯＢで、安全・安心パトロール隊だとか、それから久宝寺ほっとステーションが実は運営されてる。

一つ聞きたいのは、どうしてそういうふうな巻き込みというか、小学校のＯＢの人たちの組織化が可能になったのかというのを、ちょっと聞きたいんですけど。

○津川氏　実は、私、地区福祉委員会の委員長をしておりまして、たまたまＰＴＡの会長も２年間は役員で来ておられたんですね。自分の子どもが、卒園した後は、ただの住人やと。「ちょっちょっちょっ」と呼んで､膝つき合わせて、ちょっと相談やけどいうことで、１時間余り話して、何とか自分らでやるわ、自分らで好きなようにやってくれたらいいよということで、余り制限もしませんでしたけど。そしたら彼らは、人数10人ほど集めまして、団体をつくったと。今では女性の方も、奥さん連中もいろいろありまして、女性の方も14～15人集まって、今、ほっとステーションでは、30人前後の方がお互いに交代してやっておられるんです。いつも、初めやりかけたときは、各部会でやってたんですけど、それが20～30名ぐらいの出席だったんです。今は80名ぐらい、多いときやったら満席で、早うかわったっていうことがあるくらい人気になったほっとステーションでございます。

○田中先生　ありがとうございました。

多分、これすごく、今どこも若い世代の巻き込みとか、次の運営どうするって、どこも悩みやと思うんですけども、一つの答えかなと思うのは、やっぱり勝手に好きにさせてあげるということが大事なんやろうなと。ピラミッドの中で、例えば、ピラミッドの下に位置して決められたことをただ単にやるとか、お手伝いする、多分これ、長続きしない。参加にもいろいろ程度があるわけですよね。その人なりの参加のレベルを、だから今、地域づくりをやってるリーダーの人たちは、同じことを求めてはいけない、それを多分、津川さんなんかは、いや、あなたたちの好きなように、あなたたちのリズムでやったらよいのだということをしてあげたことが、一つの勝因じゃないかなと思って聞いてました。

○津川氏　普通はね、福祉の各部会に、10人おったら２人、２人って配属するんですよ。それをしないで、自分らのグループで好きなようにやってください。このとき、こんな催しもある、手伝っていただけますかいうたら、みんなで手伝うというふうにしております。

○田中先生　わかりました。ありがとうございました。

［亀井小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○小澤氏　亀井小学校区まちづくり協議会

の小澤です。よろしくお願いします。

それでは、亀井小学校区まちづくり協議会の平成26年度の活動成果報告をさせていただきます。

亀井小学校区では「安全・安心で住みよい・ふれあいのあるまち」をめざし、六つの目標を掲げ、事業に取り組んでおります。

まず、防災対策事業といたしまして、26年度は11月に校区集会所において、災害時避難所開設机上訓練、通称ＨＵＧ（ハグ）を開催いたしました。各町会より30名の参加があり、実際に避難所を開設するわけではありませんが、カード形式で避難所開設を模擬体験するもので、当日は四つのグループに分かれて、大災害の発生を想定し、さまざまな事情を抱える避難者をどのように避難所へ受け入れるかを考えました。

また、１月には災害クロスロードゲームも30名の参加で開催し、阪神・淡路大震災での経験から、実際に災害時に起こるであろう問題に対して、イエスかノーかの難しい判断をするゲームです。皆さん真剣に自分の意見を述べられていました。

跡部本町公園や北亀井町公園では、消防署の協力も得て、防災訓練を実施しました。また、１月の消防出初め式においても、放水訓練に参加しました。

また、夜間の災害発生に備え、資機材を５年計画で、各公園や防災倉庫に配備しており、昨年はその２年目で、投光器や発電機などを配備いたしました。

次に、青色防犯パトロール事業といたしまして、青色パトロールカーを導入し、毎週２日午前と午後に、地域の防犯・見守りパトロールを実施しております。

また、通称「かめっ子パト」は地域の方々に活動の様子をＰＲするため、地域フェスタＩＮ亀井小学校区でも展示しました。

次に、緊急時連絡体制構築事業といたしまして、まず、災害時の地域住民の通信手段のため、携帯用の無線機を２台配備し、防犯パトロール時にも利用しています。

大災害に備え、避難所・地域間の連絡手段を確保するため、車載用の無線機を設置しました。

また、地域の活動拠点となる校区集会所にアンテナを設置し、集会所の基地局との連絡体制を整えました。これらは、地域フェスタや市民スポーツ祭にも活用しました。

次に、歴史マップ作成事業といたしまして、今年度は１月に「第２回歴史探訪ＩＮ亀井小学校区」と題して、飛鳥・奈良時代の亀井小学校区をテーマに、八尾市文化財調査研究会の協力で、講演会を35名の参加で開催しました。

２月には「わがまち歴史マップＶＯＬ．２」作成に向けて、亀井小校区内の史跡のまちあるきと基礎資料の収集を参加者14名で行いました。

また、「わがまち歴史マップＶＯＬ．２」ワークショップを参加者15名で校区集会所において開催しました。

そして、この校区に初めて来た人も、由緒ある歴史に接してもらいながら楽しく散策できる、わがまち歴史マップＩＮ亀井「古墳・飛鳥・奈良時代編」を作成し、マップを6,000部印刷して、亀井小学校区全戸に配布いたしました。

次に、地域マナー向上事業についてですが、啓発用のぼりを70本作成し、地域の11町会に配布して掲示いたしました。

「安全・安心で、住みよいふれあいのあるまち」や「たばこのポイ捨て禁止」「町会加入促進」などの啓発用のぼりを各町会で掲示して、地域のマナー向上と地域の活性化を呼びかけております。

また、昨年度は、ごみやたばこポイ捨て禁止のポスターを作成し、地域の掲示板などでＰＲしました。

次に、世代間交流事業といたしまして、５月に地域でも最大規模のイベントである、第９回地域フェスタＩＮ亀井小学校区を開催しました。

防災と環境をテーマとし、地域参加型のイベントとして、地域のさまざまな団体をはじめ、市の各部局や自衛隊、警察、日本赤十字社などの協力をいただき、たくさんのブースが並びました。

ステージでは、さまざまな内容の発表が行われ、亀井小学校の先生方の歌や楽器演奏では、子どもたちをはじめ、参加者全員が大いに盛り上がりました。

また、消防部局の協力をいただき、可搬式ポンプを使用した放水訓練も実施しました。

最後に、参加者全員でバケツリレーを行い、防災を目的として地域が一つにまとまりました。

また、世代間交流事業として９月には敬老演芸大会を開催しました。高齢者の方々をはじめ、出演者のご家族など、たくさんの方々が参加していただきました。

こども会の歌・ダンス、地域の方のマジックショー・歌の演奏など盛りだくさんの内容でした。子どもたちから高齢の方々まで、参加者全員が、楽しいひとときを過ごし、世代間の交流を行いました。

10月には、第34回市民スポーツ祭を亀井中学校で開催しました。小学校の耐震工事で会場がいつもと変わり、当日の準備などが心配されましたが、問題もなく実施できました。

町会対抗の競技とオープン参加の競技があり、リレーでは、防災活動が活発な亀井小学校区らしい、応急担架を使った担架リレーが行われました。

昨年から、新しくメガシティタワーズ自治会も一部の競技で参加し、合計11町会が熱戦を繰り広げました。

次に、推進事業案内・報告などの広報事業としては、昨年４月に亀井小学校区集会所が完成し開所式を行いました。

校区集会所を地域活動の拠点とし、地域への広報のため、正門横に広報用掲示ボックスを設置し、さまざまな情報提供を行っております。

最後に、学校行事の亀井小学校農業体験学習ですが、小学校内の田んぼにおいて、毎年５年生が、春から半年かけて米づくりの貴重な体験学習をするもので、地域の方々も指導・協力を行っているものです。

昨年は台風が多く心配されましたが、子どもたちの努力が実り、目標を大きく上回る収穫で、みんなで稲刈りをして、おいしくいただきました。貴重な経験をし、食べ物の大切さを感じてくれたと思います。

以上で、亀井小学校区まちづくり協議会の活動報告を終わらせていただきます。
ご清聴ありがとうございました。

○田中先生　どうもありがとうございます。

亀井も一度、たしか講演会で呼んでいただいたと思いますので、そのときも感じてたんですけども、非常に熱心で、細かいところまで行き届いているというか、取り組みが非常に総合的かつ少し先を見越して戦略的に行われているという印象を受けました。

学校との、恐らく関係も非常によいんでしょうね。学校との信頼関係の中で、いろいろ地域づくりの展開をされてるということも伺いました。

それで、一つ、歴史マップのところの取

り組みがおもしろいなと思ったんですけども、こういうの、いきなりマップづくりから入ってないんですよね。とにかく、歴史的資源というのは、何度も言ってるように、自分たちのある種のきずなというか、つながりというか、誇りをもたらす見つめ直すようなもんですから、こういう歴史的な資源があるなら、なおさらほっとくのはもったいないわけです。これも、学習しながら自分たちが成長することと合わせてちゃんと成果物も残っていくという、二兎を追うような形でやられてるのが、非常に上手いなと。最初に講演会をやって、じゃあ、この地域どんながええんやろうということを歴史的に知りましょうというのをやって、実際に、自分たちでまちを歩いて、その学んだことを感じてみる。その次に、感じたことをもとにして、ワークショップというのが、多分どこの協議会でも今は当たり前のように使ってるかもしれませんが、こういうふうな自分たちが感じたことをグループや全体で共有するには、非常にいい方法、手法になってます。それを使いながら、自分たちが感じたことをお互いが話し合ってまとめていくと。最終的に、それが歴史マップの作成という形で、成果として残っていく、それは自分たちの、ああ、ようやったなというふうにもなるし、これ、いうたらよそから歩きに来る人なんかにもお見せして、持って帰ってもらうことができると。いろんな意味で、学習をしながら自分たちの地域を知って、これが地域づくりにもつながってるというしかけとして、非常に有意義だし、ほかの校区にも参考になるんじゃないかなと思って聞いてました。ぜひとも、今後いろんなことにチャレンジしながら、チャレンジすることで多分体力がついてきたと思いますので、頑張ってやってください。ありがとうございました。

［田中先生による全体講評］

○田中先生　皆さん、どうもお疲れさまでした。もう予定の時間が過ぎてますので、５～６分でまとめてしまいたいと思いますが、昨年もそうだったんですけども、非常に参考になるというか、僕も行きがかり上、ほかの自治体とのおつき合いも多いし、こういう支援もさせていただいてるんですが、なかなかそろって自治体の中の校区のまちづくり協議会が横断的にみんなで報告し合って振り返りをして学習し合うという場は、皆さんは当たり前のように思ってるかもしれませんけども、実はほとんどやってるところがないのです。

多分、今日もほかの校区のいろいろ活動を見聞きして、あ、こんなことができてるんや、そしたら、少しうちのバージョンに置きかえて、こんなふうに展開してみようとか、あるいは、自分自身としても、いろんな学びがあったと思うんですね。こういうチャレンジをしてみよう、こういう応用をしてみようと。ともかく、実は一つ一つの校区の取り組みなんだけども、これが相乗効果となって八尾市全体の地域づくりを

行ってるという、非常に希有な例だと思って僕は見てます。

実は、私も、皆さんはそういう意味で大先輩になるんですが、昨年から、子どもが３人おるもんですから、こういう商売ですから、比較的午前中ゆとりがあるもんで、朝の見守り隊を始めました。週２回だけなんですが。あと、この６月に、実はうちもマンションの新興地域なもんですから、子ども会がなかったんですね。子ども会がないといろいろ子どもが、実はかわいそうやなと思うことが多くて、それこそ久宝寺の小学校区のＯＢの人たちやら集まって、いろんなこと始めてるわけじゃないですけども、私も、子どもの友人のお父さん、お母さんと一緒に、子ども会を立ち上げたんですね。

そういう意味で、今日の皆さんの取り組みというのは、先輩たちがやられてることなんで、こんなことも、じゃあ、自分の神戸の子ども会でやってみようかなというふうに思うことが多々ありました。そういう意味で、本当に感謝してます。ありがとうございました。

その上で、最後に、来年は違うバージョンで会いましょうということを、最後に一言だけお伝えしたいんですね。

つまり、コミュニティというのは、ややもすると、例えば、変わらないことがいいんだ、あるいは安定してることがいいんだ、例えば、言葉でいうたら定常性、安定性あるいは恒常性、こういうことをもってよしとする傾向があるけども、もちろんそれも大事、常に変わらない、ふるさとというのは常に変わらない。それも大事なんですが、今日はちょっと違う視点から、やっぱりバージョンアップしていかないといけない。常にコミュニティも成長し、コミュニティを支えてる人たちも学んで伸びていくんだっていうことを、やっぱりめざしてほしいというふうに思ってます。そのための、実は今日は幾つか５，６点お話をしたい。

一つ目は、常に何か進化を意識してほしい、これ、写してる資料は、多分市役所の方、プリントアウトしてくれてると思うんで、細かいとこは見てほしいと思いますが、結局、コミュニティ自身は、いろんな人のかかわりででき上がってますよね。だから、必ずしも一つの方向に定まっていくものではないわけですよ。逆に言うと、常に決まった人が一定の関心とかテーマで活動すること自体がおかしいんだという観点に立ってつくっていかれたらどうですかということです。

これは結局、どういうことかというと、新しいメンバーが、常に新しい関心とかテーマを持ち込みながら、それを、要するにおもしろがると呼ぶんですね。久宝寺の津川さんに質問したことは、そういうことなんですね。結局、そこは若い人たちが好きにやったらええんやと、任せた。だから、それはひょっとしたら津川さんが考えてる価値観とは違うかもしれないけども、それで、要するにいいんだということを、まずスタートとしては確保しましょうと。そうじゃないと、だから、バージョンアップは図れていかないということです。

二つ目は、バージョンアップを図るために大事なこととしては、中だけでやろうとしないということですね。外の視点を持ち込んでください。外の視点って何や、手っ取り早い話が、要は、大学とか大学生なんか使われたらええですよ、いうことなんです。自治会単位、校区まちづくり協議会単位でそういうのは難しいのではないかというかもしれませんが、実は、私のところも

実は三つぐらいの校区まちづくり協議会と既にやってます。枚方の菅原東校区というまちづくり協議会、あるいは、全然パターンは違いますが、滋賀県の近江八幡市の、これは中山道の昔の宿場町の小学校区、これ、全校生徒が100人ぐらいしかいないとこです。物理的に距離は離れてますが、月に１回はやってます。

だから、これは、ほとんどの校区としたら、やっぱり若い人の感性とか、若い人の考えてることと行動って、非常に異種、違和感ですね。でも違和感を楽しんで、自分たちでは思いつかなかったようなこと、できなかったことを組み入れてバージョンアップをしていく。ですから、ぜひとも中だけではなくて、外の発想を適材適所で持ち込むということは、やられたらどうでしょうかということなんですね。

三つ目は、これは特に内部の話ですが、要は、従前的な参加を求めてはいけないと。ここにおられる皆さんは、身を粉にして、まさにボランティア精神で地域を支えてます。でも、それを求めたらしんどいですわ。だから、今のお父さん、お母さんが、30代、40代、だからメインは、家庭を守って、要は外で働くことですよね。皆さんと同じように、地域づくりやってね。それ、しんどいですよ。だから、それぞれの持ってるライフスタイルというのがある。知識、関心、技能もある、だから、それでいいから、まずは、そこから始めてもらうという工夫をするということです。

誰しも最初から完璧なことはできないわけです。私は、今となったらかみさんに感謝してるんですけども、かみさん、うちは完全な共働きですから、ここだけの話ですよ、料理つくるの嫌いなんです。実は、結婚した当初から、かみさんは、私が料理をつくるように上手に仕向けて、おかげさまで、今は息子たちの弁当づくりから、朝ご飯をつくって、そして夜ご飯もつくってから仕事場に出るという人間になれました。最初から、でもそれやれいうたらできません。上手にかみさんに尻たたかれながらやったから、こんなふうになったんですね、10何年かけて。このたとえと同じなんですよ。皆さん60代、70代の人、今、地域づくりの先頭を切ってます。でも、いきなり先頭切れいうたかて無理です。せやから、20年ぐらいの時間をかけて、リーダーになってもうたらええというぐらいの気概で、それぞれの参加で構わないという度量の深さ、広さを持ってください。

四つ目としては、第３の居場所をつくる。実は、サロンを今日僕は大分推奨しました。これです。要は、仕事場でもない家庭でもない、もう一つの場所を地域の中へたくさんつくってください。要するに飲み屋なんですよ、飲み屋。会話っていうのは、実は非常に私、重要だと思ってます。他愛もないことかもしれないけども、そこから実は地域づくりとかやろかという人も出てくるかもしれないし、いろんなアイデアが生まれてくる場所なんです。だから、ざっくばらんにこういうふうになんかご飯食べながらお茶飲みながら、お酒飲みながら語り合えるような場所を、要は校区まちづくり協議会としてつくっていくということが大事だと思うんです。

だから、今日も幾つかありましたよね、サロン的なことの紹介が、だから、ああいうのは、ぜひ拡充してください。

五つ目としては、自分たちが生み出したものというのは、非常に大切なんだと。今日は歴史的な資源のことで大分ありました。それから、検証していく、コミュニティの

価値というのは、実はいろんな過去から現在、そして未来の活動を通じて生み出されていくもんなんです。だから、その価値を、その人の内部に、あるいは一部の人にとどめるんじゃなくて、常に発信をして、それをみんなで共有をして、自分たちのやった活動を振り返りながら、振り返らないと人間は成長しないんですよ。やりっ放しではだめということです。

六つ目としては、親近感と刺激を組み合わせていく。要は、惰性になったらあきませんよと。惰性は建設的な意見を生みません。だから、常に刺激的な部分も組み合わせていく。これは、既に幾つかの校区で実践されているように、あえて、あえてですよ、自分たちが絶対やらないようなことに来年度はチャレンジしてみる。あえて、自分たちが考えつかないことを考えてくれるような人に任せてみるっていうことを、今のリーダー層は、あえてずらして見るわけ、あえてすかす。それを戦略的にやられる地域っていうのは、恐らくこれからもっともっと伸びていくでしょう。これ、刺激を組み合わせてるわけです。親近感だけでは、仲間集団だけではだめですよという。

最終的に、今日の流れにリズム感を持たせてください。リズム感で今から同じことを繰り返さない。同じことの繰り返しは、非常にリズムが単調ですよね。そこに、不協和音と呼ばれるような音も入って、初めて、いわば曲ができるわけです。重奏が奏でられるわけです。音っていうのは非常に一つではつまらないです。複数組み合わされることで地域も同じ、１週間、１ヶ月、季節、半年、１年、それだけじゃない、戦略的にやられてましたね、５年単位で実は備蓄の倉庫を整えたと。そういう５年、10年先を見て、実はコミュニティをつくっていく。このためには将来図を描かないといけない。将来図を描いて日々を過ごしていく。だから同じことを繰り返さずに、かといってとっぴなことばっかりやっても、これ当然だめですよ。その組み合わせの中で自分たちがそこで成長をしていくということを、常に確認しながら進んでいくということが大事だと思います。

これで、大体予定の時間が来ました。話し足りないことはあるんですが、それぞれのコメントの中でも随分話させていただいたと思いますし、今後も、私は、やお地域まちづくりアドバイザーですから、呼ばれたらどこへでも行きます。私の後ろには学生がおりますから、学生と一緒になって何かやりたいなというときは、気軽に声をかけてください。八尾市役所通じてもらって結構です。そういうふうに多分、大学っていうところは、あるいは大学の教員とかは使っていかないと、使ってくださいということですね。

それでは、長い時間、本当に貴重な時間を過ごさせてもらいました。

また、来年、皆さんがバージョンアップしておられる場に立ち会えること、そして私も、子ども会で悩んでることを、逆に学ばせていただきたいと思います。

本当にどうもありがとうございました。